

総合的な探究の時間の第1の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
- 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

- 変化するグローバル社会において活躍できる生徒を育成する。
- 伝統の継承・再生とともに社会の変化に柔軟に対応し、生徒・保護者・地域社会からの期待に応える。
- 普通科・生活デザイン科が相互に切磋琢磨しながら教育の質を高め、新しい価値の創造に積極的に挑戦し、社会に貢献できる生徒を育成する。
- 学校、家庭、地域社会と連携・協働し、社会に開かれた創造性豊かな教育を行う。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

- 地域社会の産業と伝統を中心となって支え、多様性を認め、自他ともに尊重できる人間の育成
 - ・ 一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力
 - ・ 疑問を持ち自ら課題を設定して解決に向け考え抜く力
 - ・ 多様な人々とつながり、考えを受け入れ、協働する力

総合的な探究の時間の学習評価

- ・ プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価
- ・ 討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価
- ・ 学習や活動の状況などの観察記録による評価
- ・ 評価カードや学習記録などによる生徒の自己評価や相互評価
- ・ 保護者や地域社会の人々等による第三者評価

生徒の実態

- ・ 地域社会の穏やかな環境の中で育った純朴で素直な生徒が多い。
- ・ 日々の授業や探究活動、校内外の様々なボランティア活動等に真面目に取り組む生徒が多い。

生徒の発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする生徒への指導

- ・ 個に応じたきめ細やかな指導
- ・ 個別面談や教育相談の充実
- ・ チーム対応（教員、SC、SSW、家庭、外部機関の連携、中学校との連携、個別の教育支援計画）

目指す生徒の姿

- ・ 確かな知識・技能を身につけ予測困難な社会を生き抜くことのできる生徒。
- ・ 豊かな人間性と基本的な生活態度を併せ持つ生徒。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

- ◎目標を実現するにふさわしい探究課題
 - 1学年「探究について学ぶ、地域の伝統文化・産業について学ぶ」
 - 2学年「地域課題の解決方法について、自ら問いを設定し、探究し、発表する」
 - 3学年「探究活動で学んだことを発信する、自己の将来と結び付けて考える」
- ◎探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力
 - 知識及び技能
 - ・ 探究のプロセスを理解し、プロセスに沿って活動を行うことができる。
 - ・ 地域の伝統や産業について、地域社会の歴史や文化と関連させて理解する。
 - ・ 情報リテラシーを学び、正確な情報を収集・整理・発信することができる。
 - ・ 探究活動で学んだ内容を自身の将来と結び付けて考えることができる。
 - 思考力、判断力、表現力等
 - ・ 自分の興味関心と結び付けて適切に課題設定を行うことができる。
 - ・ 課題解決に必要な情報を整理、比較し、正確に分析することができる。
 - ・ 探究活動の調査内容等について、論理的にまとめ、表現することができる。
 - 学びに向かう力、人間性等
 - ・ 課題解決に向けて、仲間と協働して取り組むことができる。
 - ・ 他人との関わりを通して、多様な価値観や異なる文化の存在を理解し、社会参画や社会貢献しようとする意識を持つことができる。

学習活動、指導方法等

- ◎チャレンジ・プロジェクト
 - 探究スキル向上プログラム事業
 - ⇒ 外部講師による講演等を活用しながら探究活動の意義と手法を考える。
 - 地域理解プログラム事業
 - ⇒ 石岡市の伝統と文化、また、石岡市のまちづくりやその課題について学ぶ。
 - グローバル視点で文化の継承と再生を考える伝統文化体験事業
 - グローバル視点で多文化共生を考える国際交流事業
 - ⇒ 日本の伝統文化と海外の文化を比較し、国際社会における日本の立場や状況を理解する。
 - 生活デザイン科の学びを深める体験学習事業
 - ⇒ 生活デザイン科の学びの深化と共に普通科との連携強化を図る。
- ◎総合的な探究の時間及び普通教科を指導する際の基本的方針
 - 個に応じた指導の充実
 - 体験活動の重視
 - 協働的な学習活動の充実
 - 教科・科目等と関連づけた指導の重視
 - 対話を中心とした個別支援の徹底
 - 言語活動による体験の意味の自覚化と深化

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

- 校務運営委員会における校内の連絡調整
- 地域社会（市役所・地元商工会など）との連携・協力の強化
- 教職員全体による支援体制の樹立
- ティーム・ティーチングを基本とする指導体制の確立
- 企画開発・ICT教育推進部を中心とした支援体制の確立
- 情報機器や校内インフラの整備及び外部への配信